

令和 7 年 第 8 回

東京都教育委員会定例会議事録

日 時：令和 7 年 5 月 22 日（木）午前 9 時 30 分

場 所：教育委員会室

令和7年5月22日

東京都教育委員会第8回定例会

〈議 題〉

1 議 案

第33号議案

令和8年度東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の第一学年児童の募集人員等について

第34号議案

区教育委員会指導主事の懲戒処分について

第35号議案から第38号議案まで

東京都公立小学校職員の懲戒処分等について

2 報 告 事 項

(1) 都立高校における新たな受入環境充実校の設置について

(2) 令和9年度全国高等学校総合体育大会に係る東京都実行委員会の設立・開催
及び高校生活動について

(3) 令和7年度における日本語指導の推進について

(4) 令和6年度都立高校生の国際交流について

(5) グローバル人材育成に係る成果検証について

(6) 中学校英語スピーキングテスト 令和6年度実施状況について

(7) 東京都公立学校職員の懲戒処分について

教 育 長	坂 本 雅 彦
委 員	秋 山 千 枝 子
委 員	北 村 友 人
委 員	宮 原 京 子
委 員	高 橋 純（オンライン）
委 員	萩 原 智 子

事務局（説明員）

教育長（再掲）	坂 本 雅 彦
次長	岩 野 恵 子
教育監	瀧 沢 佳 宏
総務部長	山 本 謙 治
都立学校教育部長	佐 藤 直 樹
グローバル人材育成部長	坂 本 教 喜
人事部長	秋 田 一 樹
高校改革推進担当部長	光 永 功 嗣
指導推進担当部長	市 川 茂
グローバル人材育成調整担当部長	山 田 道 人
（書 記） 総務部教育政策課長	小 川 謙 二

開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【教育長】 ただいまから、令和7年第8回定例会を開会します。

本日、高橋委員はオンラインで出席をされます。

本日は、東京新聞ほか3社からの取材と、3名の傍聴の申込みがございました。また、東京新聞ほか3社から冒頭のカメラ撮影の申込みがございました。許可をしてもよろしいでしょうか。—— 〈異議なし〉 ——では、許可をいたします。入室をしてください。

日程以外の発言

【教育長】 議事に入ります前に申し上げます。

東京都教育委員会において、一度注意してもなお議事を妨害する場合には、東京都教育委員会傍聴人規則に基づき退場を命じます。特に誓約書を守ることなく退場命令を受けた者に対しては、法的措置も含めて、厳正に対処します。

なお、拍手等により可否を表明することや、入退室する際に大声で騒ぐ、速やかに入退室しないといった行為も退場命令の対象となります。

議 事 録 署 名 人

【教育長】 本日の議事録の署名人は、萩原委員にお願いします。

前々回の議事録

【教育長】 4月10日の令和7年第6回定例会議事録については、既に御覧を頂いたと存じますので、よろしければ承認を頂きたいと存じます。よろしいですか。—— 〈異議なし〉 ——では4月10日の令和7年第6回定例会議事録については承認いただきました。

また、4月24日の令和7年第7回定例会議事録を配布しておりますので、御覧いた

だき、次回の定例会で承認いただきたいと存じます。

次に、非公開の決定でございます。本日の教育委員会の議題のうち、第34号議案及び第35号議案から第38号議まで、並びに案報告事項（7）につきましては、人事情報に関する案件でございますので、非公開としたいと存じますが、よろしいですか。

———〈異議なし〉———では、ただいまの件につきまして、そのように取扱います。

議 案

第33号議案

令和8年度東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の第一学年児童の募集人員等について

【教育長】 それでは、第33号議案「令和8年度東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の第一学年児童の募集人員等について」の説明を都立学校教育部長お願いします。

【都立学校教育部長】 はい、それでは第33号議案「令和8年度東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の第一学年児童の募集人員等について」ご説明をいたします。資料を御覧ください。東京都立立川国際中等教育学校附属小学校につきまして、令和8年度の第一学年児童の募集人員等を定めたものでございます。「1 募集概要」を御覧ください。附属小学校の募集学級数は令和7年度と同様の2学級といたします。東京都の公立小学校の学級編制基準上1学級の定員は35名であることから合計を70人といたします。また、東京都立立川国際中等教育学校と同様に海外帰国・在京外国人児童募集枠を設け、70名の内数として男女各6名ずつ募集いたします。「2 前年度との比較」でございますが、学級数、募集人員数とも前年度からの増減はございません。説明は以上でございます。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問、御意見はございませんか。御意見、御質問がございませんようですので本件につきましては原案のとおり決定をしてよろしゅうございますか。———〈異議なし〉———では、本件につきましては原

案のとおり承認を頂きました。

報 告

(1) 都立高校における新たな受入環境充実校の設置について

【教育長】 それでは、報告事項(1)「都立高校における新たな受入環境充実校の設置について」の説明を高校改革推進担当部長お願いいたします。

【高校改革推進担当部長】 はい、よろしくお願いいたします。報告事項(1)「都立高校における新たな受入環境充実校の設置について」説明いたします。こちら、チャレンジスクールとは別に全日制の高校で、生徒の多様性に幅広く対応する学校を設置するというものでございます。まず、余談ですけれども、チャレンジスクールの状況等でございます。チャレンジスクールの特色ですが、昼夜間の定時制・単位制・総合学科でございまして、自らのライフスタイルに合わせて午前・午後・夜間を選択して入学でき、また、基礎・基本を重視した学習ですとか、多様な選択科目を置いております。教育相談機能も充実しております。また、入学者選抜につきましては、学力検査ですとか調査書によらない形の入学者選抜を行います。右側を御覧ください。チャレンジスクールの倍率につきましては、令和7年度を平均しまして、7校平均では1.46倍ということで、こちらは都立高校全体の平均倍率より高い状況になってございます。また生徒の状況ですけれども、御希望という点においては、午前部、午後部に希望が集中しておりまして、応募希望ができない状況でございます。またチャレンジスクールは定時制でございますので、基本の修業年限は4年ということになりますけれども、単位制の仕組みをうまく使いますと、3年で卒業することができます。この仕組みを使って、卒業される生徒さんが大体6割ぐらいいらっしゃるということで、この辺を見ますと全日制の学校生活を御希望される方もチャレンジスクールに多くいるのかなと思っております。中段、「設置の目的」でございます。令和6年10月に都立高校におけるチャレンジサポートプランを策定・公表いたしました。この中で、この学校の設置について公表したものでございます。生徒の多様性に幅広く対応できる

学校としまして、昼夜間定時制高校のチャレンジスクールとは別に、柔軟できめ細かな教育課程や教育相談体制の充実を図った学校を設置するというものでございます。チャレンジスクールの設置場所ですとか、地域バランスを踏まえまして、学校については世田谷区の深沢高校を選定したところでございます。「Ⅱ 新たな受入環境充実校が目指す方向性」でございますけれども、入学を想定している生徒さんの像につきましては、自らの個性や能力を発揮し充実した学校生活を送りたいと考える生徒、基礎学力を身に付け、目標に向かって挑戦したい生徒、小・中学校で不登校を経験したものの学び直したいと願う生徒さんの像をイメージしてございます。右側が「学校コンセプト」ですけれども、生徒の学ぶ意欲に応える学校、生徒の多様性に幅広く対応して、生徒のペースで成長できる学校、生徒が安心して学べる学校を掲げてございます。一番下、「取組の方向性」ですけれども、既存のチャレンジスクールの良さを全日制にも取り入れていくということ、それから、今、都教委の方でも新たな教育のスタイルを展開してございますけれども、デジタル技術等を用いまして、積極的に用いる学校として設置を進めてまいりたいと思います。

2 ページ目を御覧ください。「新たな受入環境充実校概要」になります。学校所在地は世田谷区の深沢でございます。改編予定は、令和 8 年 4 月 1 日。学校規模等ですけれども、全日制の単位制普通科になります。募集人員は、1 学年 4 学級 160 名を予定してございます。学校の特色については、いくつか挙げさせていただいております。単位制の仕組みをうまく使いまして、生徒が自らのライフスタイルに合わせた登校時間、例えば右側の表にありますと、8 時半から、朝から登校するという形でも、少し遅めの 10 時半からという形でも、3 年間で卒業できるように工夫してまいりたいと思います。また、単位制の仕組みを生かしまして、多様な選択科目を設置するなど、きめ細かい指導を充実させてまいりたいと思っております。四つ目の点の部分ですけれども、不登校傾向の生徒さんを対象にしました、校外別指導というのを現在行っております。こちらではオンデマンド教材等を活用して、指導を行い単位認定に繋げていくようなモデル授業を今後展開したいと思っております。こちらの学校もそのモデル校の一つとなっております。探求活動や体験活動充実、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーを常時配置して、教育相談体制を充実させようと考えてご

ございます。入学者選抜につきましては、不登校経験がある生徒さんにも配慮した形ということで、学力検査の得点と調査書の比率、これは原則都立高校では7対3ということになっております。こちらについては10対ゼロ、つまり調査書は、学力検査だけで得点を査定するという、いずれか高い方を採用するという形を取りたいと思っております。改編に向けたスケジュールですけれども、10月の教育委員会におきまして、改めて募集人員については付議させていただきたいと思っております。来年の2月には新たな形での入学選抜を行いまして、8年4月から新入生の方をお迎えしたいと思っております。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

【教育長】 ただいまの説明に対して何か御質問や御意見はございませんか。宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 御説明ありがとうございました。むしろ新たな教育のスタイルということの一部を実現できるという意味では、大変良い取組だと思えました。一点だけ、在校生、来年2年生・3年生になる在校生と新1年生の教育課程、カリキュラムが異なることになると思いますので、そちらについて在校生がしっかり理解できるような丁寧な説明と御理解いただける環境をつくる、ということと、1年生のようなカリキュラムで自分もやってみたいというふうに在校生がおっしゃった場合、これはカリキュラム上難しいのかもしれないですけれども、どんな対処を検討されているのかということをお教えてください。

【教育長】 高校改革推進担当部長、お願いします。

【高校改革推進担当部長】 はい、ありがとうございます。まず在校生と関係者を含めた配慮につきましては、十分やっていきたいと思っております。教育課程上はおっしゃるように、来年の2・3年生と1年生では、カリキュラムが異なるということもありますので、しっかり検討していきたいと思っております。宮原委員の御意見を踏まえまして、在校生にもメリットがあるというか、うまく新しい仕組みが生かせるような形ができないか検討を進めてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

【教育長】 ほかに、いかがでございましょうか。秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 秋山です。私も宮原委員と同じ意見です。御説明でありましたが、新たな教育のスタイルで、これがモデル校になるのではないかと思いますので、東京

都が考える新たな教育のスタイルのモデル校という考えの方を前面に出していただいた方がいよいに思います。

【教育長】 高校改革推進担当部長、お願いします。

【高校改革推進担当部長】 ありがとうございます。おっしゃるとおりかと思えます。今回の全体のコンセプトとして、全日制で学びたい、いろいろ困難を抱えていてもチャレンジしたいと思われている中学生は必ずいらっしゃると思えます。今までもチャレンジスクールがあったわけですがけれども、全日制でできるだけ少し緩やかというか、自分のペースで学べて、支援体制もきっちりやっているというところで学び直したいという生徒さんに是非、全日制の学校にもチャレンジしてほしいという気持ちで入試も含めて、検討してまいったものですので、新たな教育のスタイルはデジタルも含めて、あるいは柔軟性もありますし、生徒一人一人のニーズに応えるというのが新たな教育のスタイルの基本かと思っておりますので、そちらも踏まえまして、開設までしっかり検討してまいりたいと思えます。ありがとうございます。

【教育長】 秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 御説明ありがとうございます。今までの深沢高校のイメージというのを持っていらっしゃる方々もおられると思うので、そのイメージも大事にしなくていけないと思えます。現在の在校生と同じ学び方といいますか、学ぶ方法が違ったとしても、在校生と同じにしたいという人も排除してはいけないと思えますので、そこも考慮した取組をお願いしたいと思えます。

【教育長】 高校改革推進担当部長、お願いします。

【高校改革推進担当部長】 ありがとうございます。現在、深沢高校は、60年ぐらいの歴史がある学校として、学校の特色としましては、キャリア教育や部活動が盛んです。新1年生についても部活動とかも、しっかりやりたいという生徒もいらっしゃると思えます。そういった方は、例えば朝一の時間帯、8時半から来ればきっちり部活動に参加できたりもしますので、その辺りは生徒のニーズに合わせながら、既存の深沢高校の良さもしっかり残しながら学校を作ってまいりたいと思えます。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにいかがでございましょうかでしょうか。—— 〈異議なし〉

——ほかに御質問、御意見がございませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

(2) 令和9年度全国高等学校総合体育大会に係る東京都実行委員会の設立・開催
及び高校生活動について

【教育長】 それでは報告事項(2)「令和9年度全国高等学校総合体育大会に係る東京都実行委員会の設立・開催及び高校生活動について」の説明を指導推進担当部長の方からお願いをします。

【指導推進担当部長】 それでは報告資料(2)を御覧ください。「令和9年度全国高等学校総合体育大会に係る東京都実行委員会の設立・開催及び高校生活動について」説明いたします。まず資料1ページを御覧ください。最初に全国高等学校総合体育大会について簡単に説明いたします。まず「1 全国高等学校総合体育大会の概要」を御覧ください。通称インターハイと呼ばれてはいますが、このインターハイは、規模・内容において高校生最大のスポーツの祭典としまして、技能向上、それから生徒相互の親睦等を目的として開催しているところでございます。次に、「2 令和9年度 南関東ブロック大会」についてでございます。開催時期は令和9年7月下旬から8月下旬に開催予定となっております。その下に、「大会愛称」それから「総合ポスター図案」などを示しておりますけれども、こちらは昨年度、生徒から南関東ブロック4都県で募集しまして、代表に選ばれたものでございます。それから右の表は、「各都県での開催予定競技種目」を示したものでございます。東京都では9競技という形を予定しているところでございます。それから資料下の「3 大会開催までのスケジュール」を御覧ください。昨年度は準備委員会を設置するなど、準備を進めてきたところですが、今年度は東京都実行委員会及び高校生活動推進委員会を設置しまして、令和9年度の大会開催に向けて本格的に準備を進めていくところでございます。次に資料2ページを御覧ください。東京都実行委員会の設立・開催についてでございます。初めに概要です。この実行委員会の設置目的については(1)に示したとおりでございます。それから「(2) 実行委員会の事務」でございますけれども、

①から④のそれぞれの内容について扱う予定でございます。それから「（３）専門委員会の設置」でございますけれども、この実行委員会の中の下部組織として、資料にお示しした①の競技専門委員会から④の輸送・警備専門委員会までの四つの専門委員会を設置する予定でございます。それから（４）に高校生活推進委員会の設置についてお示ししましたけれども、こちらは後ほど改めて説明をさせていただきたいと思えます。続きまして、「２ 委員構成」でございますけれども、詳細は次の資料３ページを御覧いただきたいと思います。こちらは、今年度の実行委員会で予定している委員一覧の案でございます。昨年度に設置しました、東京都準備委員会の委員に加えまして、関係区市の教育長、それから競技団体や専門家等の関係者を加える予定でございます。具体的には、設立総会で実行委員会の設立が承認された後に、正式にそれぞれの方に委嘱するといった手続になります。恐れ入ります。資料２ページにお戻りください。続きまして資料の右になります「３ 実行委員会の開催予定」でございます。おおむね年に１回から２回の開催を予定しております。今年度は、来月６月２０日に設立総会並びに第１回実行委員会を開催する予定でございます。それから、「４ 第１回の実行委員会での審議事項」、予定している内容でございますけれども、こちらは（１）の開催基本計画から（４）まで審議をしていただく予定でございます。続きまして、資料４ページを御覧ください。最後になりますが、高校生活動について説明をさせていただきたいと思えます。高校生活動の定義ですけれども、高校生活動とは高校生最大のスポーツの祭典である、全国高等学校総合体育大会で、開催地の高校生が大会の成功に向け、企画・準備・運営に自らの創意工夫をもって取り組む多様な活動としています。具体的な内容としまして、写真を掲載させていただきますけれども、例えばＰＲグッズの作成や配布、それからスポーツイベントや駅などでのＰＲ活動、大会運営のボランティア、会場での飲み物等の配布や、来ていただいた方への御案内などを想定しているところでございます。今後、東京都としまして高校生活動推進委員会を設置し、具体的な活動を進めてまいります。下のボックスを御覧いただきたいと思いますけれども、対象となるメンバーは都内の高等学校、それから中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部、高等専門学校に在籍する生徒・学生を対象といたします。一番下、「３ 今後のスケジュール」を御覧ください。今月下旬から、委員の募集を

行いまして、8月下旬から月に1、2回程度の頻度で委員会を開催していく予定でございます。なお、委員の募集に当たりましては、通常行う通知等の資料のほかに高校生が作成してくれた募集動画も活用したいと考えているところでございます。こちらで少し御時間を頂いて、日本体育大学荻原高等学校マルチメディアサークルが作成した募集動画を御覧いただきたいと思います。——〈動画視聴〉——こういった、いまどきの短い動画でPRしたいと考えているところでございます。この動画についてはこのほかに、都立竹早高校の映像研究部の生徒にも現在作成してもらっているところでございます。こうした動画も活用しながら、多くの生徒に積極的な参加を呼び掛けてもらいたいと考えているところでございます。説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【教育長】 ただいまの説明に対して何か御質問や御意見はございませんか。萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 ありがとうございます。2点あります。1点目は高校生のPR動画を拝見させていただいて、とても素晴らしいと思いました。募集のための動画ということなのですが、是非、大会期間中も同じ同級生の皆さんが頑張ってる姿を、自由な発想でPRをしていただけるよう御許可していただけたらと思います。世代的にSNSが得意な子がたくさんいるので、是非SNSの運営も含めて御指導いただけたらと思います。もう1点は、大会を通して社会貢献的な要素も含めて行っていただきたいと思います。例えば、パリオリンピックでは、SDGs、脱プラをするという活動がありました。そういった環境に対する配慮などを考えてコンセプトを作っていくというのが大事だと感じております。以上です。

【教育長】 指導推進担当部長、お願いをします。

【指導推進担当部長】 ありがとうございます。今回、先ほどの募集動画を作ってもらったのですけれども、これも私たちの予想を超える速さでかなりレベルの高いものを作ってもらいました。萩原委員のおっしゃるとおり、高校生のスキルというのはものすごいものがありますので、当然、高校生にこれから盛り上げるにはどうしたら良いのかと呼び掛けて参りますので、その中で萩原委員のおっしゃるように、実際にリアルタイムで高校生の選手の頑張り等が様々な形でPRできることは、とても素

晴らしいことなので、是非そういったことも働きかけて参りたいと思います。それから社会貢献的な要素も、こちらは教育の一環でも大事なことで思っておりますので、是非そういった視点も子供たちにしっかり働きかけてまいりたいと思います。

【教育長】 よろしいでしょうか。萩原委員お願いします。

【萩原委員】 先ほどの動画の話に付け加えて、高校生のボランティア活動も動画でPRしてください。頑張っている姿を発信してあげられたら、ボランティアの方たちの気持ちも上がってくると思うのでよろしくお願いします。

【教育長】 指導推進担当部長、お願いします。

【指導推進担当部長】 ありがとうございます。そうなんです。本当は今回の募集にあたる動画にも、前回大会の子供たちが実際に高校生活動をしている姿とかも入れたいなという思いもあったのですが、当然許諾とか様々な問題もありまして、簡単ではなかったのですが、ただ当然、そういった支えとか、様々な立場の高校生の活動をクローズアップすることとても大事なことです、それを心がけたいなと思います。ちなみに昨年度、九州で行われた大会の総合開会式でも、実際に開会式の中で各県の生徒が実際に高校生活でどんなことをこれまでやってきたのか、ということも披露しております。ですので、実際に南関東の大会では神奈川県が中心になるのですが、その辺は神奈川県とも協力しながら、是非、高校生活動で大会を非常に盛り上げようとしている、支えてくれている高校生の姿も、クローズアップして参りたいと思います。以上でございます。

【教育長】 よろしいでしょうか。ほかにいかがでございましょうか。——〈異議なし〉——ほかに御意見、御質問がございませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

（３）令和７年度における日本語指導の推進について

【教育長】 それでは報告事項（３）「令和７年度における日本語指導の推進について」の説明をグローバル人材育成部長、お願いいたします。

【グローバル人材育成部長】 それでは「令和7年度における日本語指導の推進について」について申し上げます。資料を御覧ください。東京都教育ビジョン（第5次）では、外国人児童・生徒等が日本語の能力や学力を身につけられるよう、日本語指導の充実を掲げております。そして、日本語指導の推進に当たっては、「誰一人取り残さない」の発想に立ち、赤字で示しました、日本語指導推進ガイドライン（実践編）やダイバーシティ推進校、その他、春期・土曜日本語講座や日本語指導に係る連絡会等を実施しております。資料中程、令和7年度日本語指導に関わる取組から下は、各取組の概要となります。本日は赤字で示しております、今年度の新たな取組である、日本語指導推進ガイドライン（実践編）とダイバーシティ推進校の取組について説明申し上げます。2ページを御覧ください。日本語指導推進ガイドライン（実践編）の作成です。こちらは、令和6年3月に公表した、教職員向けの手引である日本語指導推進ガイドラインの実践編として作成したものです。作成に当たっては、日本語指導推進校や地区教育委員会と連携の下に事例を取りまとめ、本年3月に公表いたしました。今年度は、6月にデジタルブック化して公表するとともに本資料の活用に向け、教員向けの連絡会等で周知し、活用を促して参ります。3ページを御覧ください。こちらは、日本語指導推進ガイドライン（実践編）の1ページになります。ここでは、外国にルーツがある生徒が入学向けに学校説明会で学校紹介を行った例を掲載しております。デジタルブックで公表する際には、ページ左下にありますように日本語指導推進ガイドラインのリンクを貼るよういたしますので、実践を見ながら理論的な内容を確認することができるようにいたします。4ページを御覧ください。ダイバーシティ推進校事業についてです。ダイバーシティ推進校では、日本語指導の充実と異文化理解・多文化共生に基づくダイバーシティ教育の推進を目的としております。項番2にありますように、令和6年度に在京外国人生徒等募集枠設置校を新たに4校設置する際に、今後の日本人生徒も含めた指導の充実について検討し、日本と外国との架け橋となり、東京や様々な国地域で活躍できる人材の育成が大切であることから、新たにダイバーシティ推進校事業を行うことといたしました。項番3を御覧ください。推進校には新たな在京外国人生徒等の募集枠設置校である、一橋高校、浅草高校、荻窪高校、砂川高校、それら4校を指定しており、各推進校ではダイバーシティ推進部

を中心に組織的な取組を行って参ります。また、各校には加配教員1名と日本語指導を行う非常勤教員2名を配置しております。日本語指導に関しましては、特別の教育課程を編成・実施し、個に応じた指導の充実を図って参ります。そして、異文化理解・多文化共生の視点から海外交流等の体験活動として、外国人生徒の出身地との交流やJICA等と連携した講演会などを予定しております。加えて、推進校を日本語指導の拠点とすべく、今年度は試験的ではありますが、リモートによる他校への日本語指導の支援を行うなどして、他校の日本語指導を支援する体制を構築していきたいと考えております。以上の取組を通して日本語指導を推進して参ります。説明は以上です。

【教育長】 ただいまの説明に対して何か御質問や御意見はございませんか。北村委員、お願いします。

【北村委員】 御説明ありがとうございます。今、こういったニーズが高まっている中で大切な取組をしてくださるなと感じておりますので、しっかりとお願いしたいと思います。特にこの日本語指導推進ガイドラインについて伺いたいのですが、そういったニーズの高い学校の先生方というのは、かなり意識的にこういったものを御覧になられると思うのですけれども、基本的には全ての学校で全ての先生達が、こういったニーズについて理解していただくことが大事だと思います。また、言葉の問題だけではなく、言葉の背景にある考え方とか、文化に対する理解とか、そういった多文化共生を実現していく上で大事なことです。是非、日本語指導のニーズが非常に高いところでは日本語指導が重点になると思うのですけれども、そうではない学校においてもこういったことをしっかり周知して、先生方の意識を高めるようなそういったこともしていただけるとありがたいなと思います。いかがでしょうか。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 北村委員がおっしゃったように、正に全員が自分事として捉えていかなければいけない、そのように考えております。従いまして、推進校とのやり取りが多くはなりますけれども、作成した資料、それらを活用しながら、教員向けの説明会ですとか、また小中学校向けには各地区の担当者向けの説明会、こういったところでも事例も含めて周知を図っていきたいと思っております。

【教育長】 よろしいでしょうか。ほかにいかがでございましょうか。——〈異議なし〉——ほかに、御質問、御意見がございませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

（４）令和６年度都立高校生の国際交流について

【教育長】 それでは報告事項（４）「令和６年度都立高校生の国際交流について」の説明を、引き続きグローバル人材育成部長お願いをいたします。

【グローバル人材育成部長】 令和６年度都立高校生の国際交流について、令和６年度の実施状況及び、令和７年度の実施状況の予定、の大きく２点について申し上げます。資料１枚目を御覧ください。令和６年度の生徒の海外派遣の実施状況を一覧にまとめたものです。内容としては、１から５の派遣プログラムとして、延べ11箇国に資料記載の日程で合計267名の生徒を海外に派遣いたしました。資料の下段には、交流の様子の一部についてですが、写真を掲載しておりますので併せて御覧いただければと思います。続きまして、資料２枚目を御覧ください。海外派遣の主な訪問先と交流の内容です。どのコースにおいても、おおむね資料記載の訪問先を訪問し、交流等を行っております。高校・大学では、同世代との交流を通して世界的課題についての議論や文化交流を実施しています。現地の日本大使館や日系企業、現地企業では世界を舞台に活躍する外交官や職員の方からお話を伺い意見交換などを行っています。文化施設・世界遺産では現地を訪問したからこそできる、文化施設訪問や異文化体験を行っています。資料３枚目を御覧ください。海外の訪問に際しては、単に海外を訪問するだけでなく、年間を通じて学びを深められるよう様々な取組を行っています。参加生徒は項番「２ 研究内容例」にあるように、各学校で研究テーマを設定します。そして項番３にあるように、事前学習において設定したテーマについての調査研究を行い、現地では訪問先で英語を使って発表や意見交換などを行います。帰国後は研究をさらに進め、学校内や都教育委員会が主催する成果発表会において、生徒が得た学びや感動を広く周知、還元するという形で行っております。資料下段、項番４・５には参加生徒や引率教員の代表的な声を記載しております。英語についての重要さや必

要性はもちろんのこと、異文化への理解促進や将来海外大学や海外で働きたいといったキャリア形成につながるなどの意見がありました。4枚目を御覧ください。資料4枚目は、令和6年度の海外からの生徒受入についての報告です。主に教育の覚書であるMOUを締結した国・地域から夏と冬に分け、9箇国70名を都立高校で約1週間受け入れる生徒交流を実施いたしました。受入国、人数、受入校は資料記載のとおりです。資料右側には、交流の様子を写真とともに掲載いたしました。資料5枚目を御覧ください。令和7年度の事業予定となります。昨年度の御五つのコースを再編して四つのコースとし、11箇国に303名を派遣する予定です。カナダが新規派遣国となります。資料下段は、海外から生徒の受入れについての予定です。夏・冬に分け、新たにマレーシアからの受入れを増やすなど、10箇国から90名を都立高校で受け入れる予定です。説明は以上となります。

【教育長】 ただいまの説明に対して、何か御質問や御意見はございませんか。宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 御説明ありがとうございます。非常に特に良いなと思うのは毎回様々な国の様々な文化に触れられる機会を提供しているということで、御参加された生徒さんだけではなく、その生徒さんから刺激を受ける周りの友達もいらっしゃるんじゃないかと思って、大変良い取組だなと思います。令和6年度も大変安全に活動できましたこと、良かったと思います。1点質問したいなと思ったのは、引率教員の方は高校なので、どの教科の先生が多いのかということをお教えいただきたいなと思います。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 学校の中で選定と言いますか、派遣する生徒が決まった段階で教員も決まって参りますので、特に私どもからこの教科ということで指定しているわけではなく、学校の中で実情に応じて決めていただいているということで、様々な教科の科目の先生に行っていただいております。

【教育長】 宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 是非、英語だとかに偏らないということは、気をつけていただきたい、学校で決めていただいて結構なのですが、やはりそういった教科に偏らな

いというのは引き続き、教員にとっても非常に良い機会だというように思いますし、現地の学校の特に高校を訪問されるので、現地の学校でどのような教育を行っているのかだとか、どのようにクラスを運営していたり、どのような問いかけをしていたりするのか、のようなどころについては、教員にとっても違う教科であっても、非常に学びの多いことではないかなと思いますので、東京都の教員のためにも様々な教科の先生に体験していただいて、それを先生方も先生方自身のネットワークでしっかりとフィードバックするような形を取っていただきたいと思います。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 今、おっしゃっていただきましたように、教員にとっても非常に学びが多い、そういった期間、時間になると思っております。現地に行かなければ分からないこと、また、初めて学ぶこと、見るもの、様々あるかと思っています。また、前後に探求的な活動をしてもらいますので、生徒とのコミュニケーション、指導、そこでも学ぶものが教員にはあるかと思っております。今、いただきました御意見は、学校にも伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

【教育長】 ほかにいかがでございましょうか。秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 御説明ありがとうございました。この素晴らしいプログラムを継続していただきたいと思います。それで質問ですけれども、派遣された先の相手側の生徒さん、あるいは今回留学生を受け入れた生徒さんの声がありましたら教えてください。というのは、先ほど、日本語指導のダイバーシティの推進で日本語を学んでもらうだけの一方通行ではなく、日本人生徒も学ぶ、相互に学ぶという説明がありました。この国際交流にしても、派遣された先の相手側の生徒さんたちも日本のことをどのくらい学んでくれたのかなと思うので意見があったら教えてください。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 日本の子供たちもその現地に行って、現地の高校生と学ぶことによって、得るものがたくさんあると同時に、今、おっしゃったように現地の生徒達にも日本を知る非常に良い機会になっているだろうと思います。自分と同年代の高校生世代の子達が、日本の子達はどのようなことを考えているのか、どのようなことに興味があるのか、何が流行っているのかですとか、様々、高校生ならではの

の会話が繰り広げられています。そういう中から、日本に興味を持たれる生徒さんも確かにいらして、覚書を結んでいるところもありますので、全ての国ではありませんけれども、訪問した先の生徒さん達が、翌年日本に来るということも時々ありますので、そのように日本に大変興味を持ってくれている、視野が広がる、そういうような声ですとか機会になっているという認識をしております。

【教育長】 秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 それはとても嬉しいことだと思いますので、そういう視点からも進めていただきたいと思います。

【教育長】 ほかにいかがでございましょうか。北村委員、お願いします。

【北村委員】 どうもありがとうございます。本当に素晴らしい機会を高校生達にたくさん提供していただいて、先ほど、宮原委員からもお話がありましたけれども、様々な国が対象になっているということは本当に良いことだと感じております。少し質問というかコメントなのですが、様々なところと大使館をはじめ、日系企業等々と連携されていると思います。例えばJICAだとかも連携しているというものがあると思いますが、日本が例えば文部科学省の日本型教育の海外展開EDU-Portという事業があり、それを通して日本の教育の特徴を海外に持って行って、ここに民間企業等も関わりながら展開したいというような事業があったり、文部科学省をはじめ、あるいは他の道府県で教育委員会が行っているようなプログラムもあるかもしれません。他で様々なことを皆、行っているのだけれども、バラバラに行っているということがよく目につきまして、できれば文部科学省が行っているようなプログラムにも連携をうまくして、そこにあるリソースを活用して、さらにこういった事業を充実させていけるといいなと個人的に思いますので、どのようなところが何を行っているのか、今でも色々と御覧になっていると思いますが、是非、連携をする、それは東京にとっても良いことですが、例えば他の道府県の教育委員会さんと連携することで、また新たな機会をお互いに創出するようなこともあるかもしれませんので、東京は大きいですから、自分達で何でもできてしまうところもあるかもしれませんが、是非、少し日本全体を見るような視点で海外に出た時にどのように、他と日本の関係者とできるのかなということも少し考えていただけると良いかなというように思いま

した。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 国ですとか他の道府県も同様な取組を行っているところもございますので、お話いただきましたように、他の道府県、国の行っているところの情報収集をして、良いところを入れつつ、またそういった中で私達の省力化に繋がる部分もあろうかと思っておりますので、是非様々な視点から情報収集して、自分たちの取組に生かしていきたいと思っております。

【教育長】 ほかにいかがでございましょうか。宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 1点、先ほど、秋山委員がおっしゃったことに触発されて、念のためコメントまでなのですが、生徒さんが受け入れる時に、学校で様々な日本文化の体験をされているということで、茶道だとか書道だとか華道だとか、和の活動はあるかもしれませんけれども、いわゆる、日本の伝統文化の領域の体験をしていただいたというのは、日本の生徒さんにとっても大変良いなと思っておりますが、日本のファンを作るという意味では、それだけではないので、今日本が海外で受け入れられているもの、そこら辺は是非アンテナを張っていただいて、海外で日本がこういうところが受け入れられているなど、例えばアニメーションとかも本当にそうなのですけれども、そういったところも日本の強みであるということを日本の生徒さん自身も感じていただく必要があると思っておりますので、どうしても日本の文化というと伝統芸能に偏りがちなのですが、バランスよく是非、学校に考えていただければと思います。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 日本で生活している生徒達には日本の強みですとか、海外で日本がどのように見られているのかということを実感している生徒もいれば、そうでない生徒もいるかと思います。このような外国の方との交流の中で改めて日本というところを見つめ直して、どのように見られているのか、強みは、またこれからどのような方向性に向かっていったらいいのか考える一つのきっかけになろうかと思っておりますので、今、おっしゃったことは私達も意識しながら、また学校とも協力しながら進めていきたいと思っております。

【教育長】 ほかにいかがでございましょうか。萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 ありがとうございました。一つ質問です。昨年はオリパラシティアコースがあって、五つのコースがあったと思うのですが、今年を取組予定を見ると4コースでオリパラシティアコースというのがないのですが、四つの中のどこかに含まれるという認識でよろしいでしょうか。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 オリパラシティアコース自体は廃止と言いますか、パリ大会が終わったということでそのコースを変えたという形になりまして、この後は姉妹校交流、こちらの方をフランス・パリとは進めていければと思っております。

【教育長】 萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 スポーツの現場で頑張っている子もいますので、そうした生徒さん達にも門戸を広げていただき、廃止にしないでいただきたいなと思いました。派遣予定先の中にアメリカがあり、ロス五輪に向けて見学するのかなと思っていました。今後考えていただけたらと思います。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 様々な学校、様々な生徒達が派遣生として参りますので、そのような意味では部活、運動が得意な子達だけには限らないという形で伝えているところではありますけれども、今、おっしゃったところも含めて次年度以降も検討していきたいと思います。

【教育長】 ほかにいかがでございましょうか。―――〈異議なし〉―――ほかに御質問、御意見がございませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

(5) グローバル人材育成に係る成果検証について

【教育長】 それでは引き続き、報告事項(5)「グローバル人材育成に係る成果検証について」の説明をグローバル人材育成部長お願いします。

【グローバル人材育成部長】 それでは、グローバル人材育成に係る成果検証につ

いて申し上げます。都教育委員会は令和4年3月に策定した東京グローバル人材育成指針において、育成すべき能力を四つのT A R G E Tとして設定しています。この四つのT A R G E Tに関する児童・生徒の達成度及び取組状況等について把握、分析することでこれまでの成果を把握し、今後の参考とするため昨年12月にアンケート調査を実施いたしました。調査対象は都内公立学校に在籍する小学校第5・6学年、中学校第1～3学年、高等学校第1～4学年、特別支援学校の児童・生徒であり、各校種から対象校を抽出して実施しました。また、次世代リーダー育成道場及び国際交流プログラムに参加した生徒について、卒業生を含め調査を実施いたしました。約72,000件の回答を得ており、現在もデータ分析を進めていますが、本日はその概略について報告申し上げます。2ページを御覧ください。調査結果の概要について説明いたします。四つのT A R G E Tの達成度を測るに当たっては、各T A R G E Tをさらに2分割し、八つのT A R G E Tに細分化してアンケートを実施しました。T A R G E Tごとに2問、計16問の質問に対し五件法にて児童・生徒から回答を得ています。結果についてですが、「5 そう思う」「4 ややそう思う」の肯定的な回答が赤枠で示しているとおおり、全ての項目において50%を超えており、四つのT A R G E Tの達成度は総じて高い結果が得られました。一方で、英語によるコミュニケーションへの意欲と、また、国内外の諸課題に対する知識及び関心等が相対的に低い結果となっており、今後はこうしたT A R G E Tをさらに伸ばす施策の充実などが求められるのではないかと考えています。3ページを御覧ください。こちらは高校生全体と次世代リーダー育成道場及び国際交流プログラムに参加した高校生について、四つのT A R G E Tの達成度を比較したものです。次世代リーダー育成道場及び国際交流プログラムに参加した者は肯定的な回答が100%に近い値となっており、それらの授業に参加していない高校生と比べ四つのT A R G E Tの達成度が高い結果となっています。4ページを御覧ください。本調査においては自由記述の質問も行っておりますので、抜粋して紹介させていただきます。まず、今まで参加して楽しかった国際交流の取組として、T G GやA L Tとの交流、高校生海外派遣研修等が挙げられています。また、自身の考えるグローバル人材像やそのための努力についても、自分の言葉で表現がなされています。さらに今後、東京都や学校にあったら良いと思う施策として、英語でしか話せな

い英語DAYなどの提案を得ており、こうした意見を参考に今後の施策を検討していきたいと考えています。最後に今後の取組についてです。四つのTARGETのさらなる向上を目指し、引き続き分析を進め、グローバル人材に係る成果を詳細に把握していきたいと考えています。また、児童・生徒のグローバル人材像、今後参加してみたい取組などを参考に今後の施策を検討することや、関連する都教育委員会の施策、学校で実践されている好事例を提示していくことを検討しております。報告は以上です。

【教育長】 ただいまの説明に対して何か御質問、御意見はございませんか。宮原委員、お願いします。

【宮原委員】 御報告ありがとうございました。分析の途中だということではありますけれども、これだけ大規模にしっかりと今、東京都の生徒さんたちがどのような立ち位置にいるのか確認していただきありがとうございます。二つ質問があります。せっかく先ほどのような国際交流をする生徒さんが毎年いるということで、その参加の生徒さんを対象にしたアンケートは、できれば参加する前と参加した後で比較していただくと、よりこういった国際交流の取組が生徒さんにどのような刺激を与えていて、どのような響きがあるのかということが分かると思いますので、それを検討していただきたいというのが一つです。二つ目は、多分参加したという意味で言うと、派遣された生徒さんが対象で導き出されているのではないかと思うのですが、受け入れた学校の生徒さんがどのように違うのか、という分析は可能なのかという、先ほど、受け入れる学校がありましたので、そういった外国の生徒さんを受け入れた学校の生徒さんは、全くそういった経験がなかった生徒さんと何か違うところがあるのか、ということは分析される予定があるのか、この二つをお願いいたします。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 ありがとうございます。まず1点目の前後でというところ、まさにそうだといいところもございますので、これはこれから行く子供達にある意味限定となってしまう部分があるかと思いますが、次世代リーダー育成道場、また、国際交流派遣、この生徒達に関しましては、行く前と行った後で、どのような変化が起きているのか見ていきたいと思っておりますので、今年度からできる

ところから検討していきたいと思っております。また２点目としてお話いただきました、受け入れた学校の生徒達はどうなのかというところ、ここに関しては、まだ分析できておりませんが、72,000件得ておりますので、この72,000件を様々な形で分析して、その中から見られる部分はしっかり見てみたいと思います。

【教育長】 ほかにいかがございましょうか。北村委員、お願いします。

【北村委員】 ありがとうございます。非常に興味深いと思って拝見しておりました。宮原委員が御指摘なられたこと、正に同じことを考えていたのですけれども、今、グローバル人材育成部長も今後さらに分析をとということでしたが、やはり70,000件以上の、72,000件に近い数、すごいデータだと思うのですけれども、もう少し分析して、いわゆる、多変量解析だとかの簡単な分析をするだけでも、例えば学校による違いであるとか、生徒の属性による違いとかそういったものがかなり見て取れるのではないかなと思います。これは、この調査だけではなく、都教育委員会として行う調査、学校が行う調査全般的に言えるところではあるのですが、本来であれば、こういうデータをしっかり生かしていけるといいなと思うのが一つは先ほど、事前・事後ありましたが、必ずしもその特別なプログラムに参加したということではなく、子供たちの意識がどう変わっていくのかっていうことを経年的にパネル調整して、この変化を見ていくということができれば、東京都として色々な形でグローバル人材を育成しようとしているわけですので、その変化が見られる、その時にある学校ではやはりすごく変化が見られるということに対して、ある学校ではそうでもない、それはなぜだろうということを考えながら、新しい変化が見られないところに対して、どのような支援が必要かというのを考えることができたりするのかなと思いますので、そういった経年的に見ていくということも大事ではないかなと感じています。もう一つは、これはかなりハードルが高いのですが、他の調査と紐付けできるとさらに理想的になるわけです。つまり、学力面とどう絡めるかとか、難しいかもしれませんが、様々な調査を学校では生徒達に対して行っていますので、その中で関連するものとかこういったものを横で紐付けながら分析していくと、さらに見えてくるものが本来はあると思いますので、改めてこの72,000件ですごい数だなと思うので、これをどう生かすのか、この辺りはデータサイエンスの専門家とか、これからもっと増やしていくというようなこと

もあると思うんですが、是非、そういう専門家の知恵、又は専門性をお借りしたりしながら、この調査だけではないですけども、どちらかというと皆さん全体にお願いしたいことなのですが、是非、学校で行っているような調査を分析しながら、それを最終的には生徒に対する支援であるとか指導であるとか、先生方に対して支援、そういったものにうまく還元していただきたいなということであえて申し上げさせていただきました。よろしくお願いいたします。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 先ほど申し上げましたけれども、まだ分析の途中というところですので、全てがこう見えているのかというわけではありませんが、北村委員がおっしゃったように、学校によってですとか、生徒も属性によって、という違いはあるだろうと思っております。一例申し上げさせていただくと、例えば海外の生徒と交流を行っている学校と、そうでない学校できっと違うだろうと、影響の具合もあるだろうと思っております。そのような形で、どこの部分がどのように影響しているのか、統計的な部分になってくるかもしれませんが、こういったところも活用しながら見ていきたいと思っています。調査の方法、また紐付け等につきましては、ほかの部署とも連携を図りながら検討したいと思います。

【教育長】 北村委員、お願いします。

【北村委員】 ありがとうございます。本当におっしゃったようなことを是非行っていたいただければなど、細かい話なのですが、差の分析といって、必ずしも大きく出ているから良いではなく、どのくらい違ったかということ进行分析したりとか、そうすると積極的に行っている学校は、もしかして全般的によく見えるかもしれないけれど、あまり差が出てない、あまり大きく変わらないかもしれない、だが、ある学校は、全体から見た時に平均的だったり、下に落ち着いているように見えるかもしれないけれど、その学校の中ではとても差が生まれているということが見えたりします。そうするとそこに何か多分特殊な要因があったりして、そういった意味で様々な分析の仕方があると思いますので、是非、行っただけでいいのではないかと思います。そういったものを見ると先生方も、ある意味面白いと思っただけで良いと思います。固く考えすぎずに、「うちの学校、こういった状況なのか」等を見つけて、

ポジティブに応援するような形、「ここ駄目じゃない」というように使うのではなく、こういうデータでやはり応援して、「あなたの学校頑張っているね」のような形で是非使っていただけると良いかなと思います。よろしくお願いいたします。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

【高橋委員】 御説明ありがとうございました。今日はグローバルの報告が続いていますが、私も今真夜中のスペインにいますので、本当に実感を持って感じさせていただいております。調査の分析についてこれから詳細に行われるのだと思いますが、2枚目の結果を拝見しまして、相対的に低めになっているところと高いところを考えてみますと、私なりに思うと、普段から学校で取り扱っていることとか、例えば自分とは違う考えの人の話をよく聞こうとしている、といったようなことは、色々な場面で学校で取り扱っていると思いますが、低めの部分は外国の学校に通う人と交流してみたいとか、外国とかで起こっているニュースや動画を積極的に見ているとか、あまり学校で行っていないとか、あるいは具体的にやらなければいけない部分が低いのではないかなと思っています。非常に意識は高く、意欲もあると思うのですが、そこが具体の行為に繋がりにくいという感じがします。実は私も外国には興味がありますが、具体的に外国の方に話しかけるというのは、なかなか戸惑うところがあったりして、この辺の段差を埋めていく取組が先ほどの報告にあったような外国の派遣だとは思いますが、とはいえ70,000人に聞くような数値に上がってくるには、やはり日常的なこういった取組が必要なのではないかなという感じがしております。これから詳細に分析されると伺っておりますが、何かこの辺りで取組や計画等ございましたら、お話を聞かせていただければと思います。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 分析の中で見えてくる部分があるのだろうと思っております。ところではありますが、その中で今、高橋委員がおっしゃった学校でこのところが具体的に行われている、またそういう取組に繋がっているところが高いのであれば、実際どういう取組をしているのかというところは、我々が学校に尋ねることはできますので、それらも含めて見えてきた中では、好事例はしっかり紹介して展開する中で学校経営にも、また、ひいては事業改善にも繋げていただければという思い

を持って、これから分析を進めていきたいと考えております。

【教育長】 よろしいでしょうか。ほかにいかがでございましょうか。秋山委員、お願いします。

【秋山委員】 検証して成果を出していくという作業がとても大事だと思っています。そして北村委員がおっしゃったように経年的に見ていくと、1 ページ目のこの四つのT A R G E Tの順番が変わっていても良いのではないかと思いますし、右のイメージ図も、同じ大きさの丸ではなく、大中小のイメージになって見やすくなるのではないかなと思います。成果を是非そういったようにも表してもらえると良いなと思いました。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 今、新たな視点を頂いたなと思っております。参考にさせていただきます。ありがとうございます。

【教育長】 よろしいでしょうか。萩原委員、お願いします。

【萩原委員】 たくさんの委員の方がおっしゃっていましたが、回答の4 ページ目を見ていると、積極的な方々の意見がとても多く、そういった形で掲載されているとは思いますが、消極的に回答されている生徒の方もいらっしゃいます。今後分析をよりされていくということなので、消極的な回答をした生徒さんの言葉もしっかりピックアップしていくことで、差というものも埋まってくるのではないかと思います。消極的意見の分析も是非お願いしたいです。もう1 点は、次世代リーダー育成道場ですとか国際交流プログラムを経験された方々の意識というのは大きく変わっているというのは分かりましたが、その後のキャリアにどう生かされたのかというところまで私は知りたいです。もし調査をされていたら教えていただきたいです。

【教育長】 グローバル人材育成部長、お願いします。

【グローバル人材育成部長】 1 点目の消極的な回答のところですけども、自由意見のところは比較的ポジティブな、こう行っていきたい、考えているというような子供たちが回答をしてくれています。他方、五件法の中の1 や2 に丸をつけている部分も当然子供たちの中にありますので、そのところが何故そういった状態なのかというところは分析の中で見ていきたいと思っております。2 点目のところ、次世代リ

ーダー育成道場、また、海外交流派遣を経験した子供たちがその後はどのような道筋を辿っているのか、というところです。こちらに関しても、収集しつつあるというところで、全部が全部を掴み切れているわけでありませんが、様々な機会と捉えて、私達のプログラムを使いながら、また、その後に何か別な要因が加わって、さらにバージョンアップを図られている生徒さん達だと思っておりますので、彼ら彼女らのその後の活躍というものもしっかりと注視していきたいと思います。

【教育長】 ほかによろしいでしょうか。———〈異議なし〉———ほかに御質問、御意見がございませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

（６）中学校英語スピーキングテスト 令和６年度実施状況について

【教育長】 それでは報告事項（６）「中学校英語スピーキングテスト 令和６年度実施状況について」の説明をグローバル人材育成調整担当部長お願いいたします。

【グローバル人材育成調整担当部長】 令和６年度の実施状況について説明いたします。最初に「１ 実施概要」を御覧ください。ＹＥＡＲ１及びＹＥＡＲ２について、令和７年２月から３月にかけて各中学校にて実施し、約１４万人が受験をいたしました。また、昨年度からやむを得ない事情により受験ができなかった生徒を対象に予備日を設けまして、区部と市部でそれぞれ実施をしております。今回で３回目となるＹＥＡＲ３については、令和６年１１月、１２月に実施しまして約７万人が受験しています。続きまして、「２ ＥＳＡＴ－Ｊ 出題及び評価」についてでございます。左側の「（１）出題形式及び評価の観点」について説明いたします。ＹＥＡＲ１、ＹＥＡＲ２、ＹＥＡＲ３ともに、４パートで構成されており、問題ごとに評価の観点を設定しております。ＰａｒｔＡは、ウォーミングアップを兼ねた音読で、音声进行评估します。ＰａｒｔＢ、Ｃ、Ｄは、会話やナレーションなど、学年に応じた出題となっており、コミュニケーションの達成度など三つの観点を組み合わせて評価をします。右側の「（２）各テストの測定範囲と目標とすべきレベル」についてでございます。世界的な指標でありますＣＥＦＲを参考にしながら、学習実態に合わせて、学年が上がるにつれて段階的に上位のレベルになるように設定をしています。右側下の「（３）評

価」については、Y E A R 1 及び Y E A R 2 は 3 段階、Y E A R 3 は E S A T－J G R A D E の A から F の 6 段階で評価をいたします。続きまして、「3 令和 6 年度 Y E A R 1、Y E A R 2、Y E A R 3 の結果概要を御覧ください。Y E A R 1 を薄緑、Y E A R 2 を黄色、Y E A R 3 を濃い青で表しております。学年が上がるにつれて E S A T－J G R A D E の E や D が減少しまして、B や A が増加するなど、C E F R－J レベルは確実に上昇していることが分かります。また、Y E A R 1 最上位の B、A 1. 3 の割合は、3. 6% に対しまして、Y E A R 2 では 33. 3% と上昇をしています。さらに、Y E A R 2 の最上位の A の左、A 2. 1 の割合は 3. 9% に達し、Y E A R 3 では 20. 7% に向上し、A の上位、A 2. 2 が 10. 5% となっております。次に、中段の「4 Y E A R 1、Y E A R 2、Y E A R 3 の経年変化」を御覧ください。図の 1 は、令和 5 年度の 1 年生と令和 6 年度の 2 年生、つまり昨年の 2 年生と同じ生徒が 1 年生の時の結果を比較したものでございます。全体の分布は、C E F R－J レベルでは 1 段階程度上昇していることが分かります。また、各学年の最上位を取得した生徒の割合が 1. 9% から 3. 9% に増加をしています。図の 2 は、令和 5 年度の 2 年生と令和 6 年度の 3 年生、つまり昨年度の 3 年生の結果を、同じ生徒が 2 年生の時の結果と比較したものでございます。こちらも全体の分布は、C E F R－J レベルでは 1 段階程度上昇し、同じく各学年の最上位の割合が 3. 2% から 10. 5% に増加をしています。図の 3 は、Y E A R 3 の結果を過去の結果と比較したものになります。（1）は令和 6 年度の結果と、令和 5 年度の結果を比較したスコアの分布でございます。70 以上の生徒の割合が増加し、平均スコアも 3 ポイント以上上昇いたしました。（2）は令和 4 年度から令和 6 年度までの E S A T－J G R A D E の分布の比較でございます。A や B の割合が毎年増加し、令和 6 年度は E S A T－J G R A D E の B 以上の割合が 6 割を超えまして、3 割以上の生徒が A と評価されています。次に、各学年の問題と評価についてでございます。P A R T ごとに、出題のねらいと問題を記載しております。その下に、問題の設定や難易度などから達成度に応じて、「★」～「★★★」までの三段階で評価した結果の分布、そして、分析として「★★★」の生徒の回答の傾向と改善に向けたポイントを掲載をしています。いずれの学年も P A R T A の音読は、ほとんどの生徒が「★★★」を獲得し、出題された英文もよく読んでおりました。Y

YEAR 1の特徴としては、PART BとDは、約8割の生徒が「★★」以上を獲得しました。しかし、PART Cのイラストを説明する問題は、「★★★」の割合が12.7%と多いものの、「★」が33.5%と最も多くなっております。今後、授業の中で様々な物の位置について、語順を意識しながら前置詞を用いて説明する等の取組例をあげております。続いてYEAR 2でございます。YEAR 2では、PART Cで16.8%が「★★★」を獲得しました。しかし、PART Dでは4割以上の生徒が「★」にとどまっております。そのため、説明する際には出来事の流れを意識して適切な接続詞を使って説明をする等の取組例をあげております。YEAR 3は、YEAR 1、YEAR 2と比較しまして、全てのPARTで「★★★」を獲得した生徒が増加いたしました。特に、PART Dの与えられたテーマについて、自分の意見や考えを述べる問題では、4割以上の生徒が「★★★」を獲得し、自分の意見を分かりやすく内容を整理しながら説明することができております。続きまして、令和7年度取組の方向性について説明いたします。昨年度は当初、御不便をおかけいたしましたポータルサイトについてでございます。利便性の向上と機能の充実を図り、丁寧に情報提供を行って参ります。また、使用機器の品質管理や当日の運営などにつきましては、事業者と緊密に連携して検証・改善を図って参ります。さらに生徒向け学習教材等も更なる充実を図るとともに、学校向けの各種資料を充実させまして、生徒の英語力の更なる向上に向けて、授業改善を一層進めて参りたいと思います。最後となりますが、今後のスケジュールに関してでございます。令和7年度は御覧いただいている日程で進めて参ります。説明は以上となります。

【教育長】 ただいまの説明に対して何か御質問や御意見はございませんか。北村委員お願いします。

【北村委員】 ありがとうございます。非常に分かりやすい説明を頂きまして、生徒の到達度が年々しっかり向上していることも伝わってきました。最後におっしゃったことを繰り返すようなコメントなのですが、入学選抜にも関わるわけですが、同時に普段の学習にどのようにフィードバックするのかというところが非常に大事だと思います。この授業改善に活用するための各種資料の充実、YEAR 1、2、3を比較して御説明いただいただけでも、恐らくこういうところがスピーキングになった

際に、生徒はうまく対応できていないのだなということが見えてくるような気がしましたので、是非これを現場の先生方にフィードバックしていただいて、授業改善に繋がっていただきたいなとお願いのコメントになります。よろしくお願いいたします。

【教育長】 ほかにいかがでございましょうか。———〈異議なし〉———ほかに御質問、御意見がございませんようですので、本件につきましては報告として承りました。

参 考 日 程

(1) 教育委員会定例会の開催

6月12日（木）午前10時

教育委員会室

【教育長】 次に、今後の日程について教育政策課長からお願いします。

【教育政策課長】 次回の定例会でございますが、6月12日木曜日午前10時から教育委員会室で開催したいと存じます。

【教育長】 ただいま説明がありましたとおり、次会の定例会については6月12日木曜日午前10時から開催したいと存じますが、よろしゅうございましょうか。———〈異議なし〉———

それでは、そのように取扱いをしたいと思います。これ以降は非公開の審議に入ります。

(午前10時53分)